



たいしも通信

今回は防衛関係ニュース第8弾として、陸・空自衛隊で使用している大型輸送ヘリ、CH₄₇チヌークについてお送りします。令和7年3月発表と、本企画としては少し古い記事になってしまいましたが、支部長の出自からどうしても海自・海事に偏りがちとなり、これではいかんと奥の引出しから引つ張ってきた次第です。

◆新型チヌークの発注

この度防衛省は、2024年度予算で計上した陸自および空自用にCH₄₇チヌーク大型輸送ヘリコプター17機を川崎重工に発注しました。陸自向けの機体は12機で、空自向けの機体は5機です。これらはいずれも米軍が採用しているボーイング社のCH₄₇ブロック2をベースとしています。自衛隊における名称は現用と変わらず陸自がCH₄₇、空自がCH₄₇のままです。生産は従来通り川崎重工がライセンス生産します。CH₄₇ブロック2の採用は米国、英国、ドイツに続き世界で4番目となっています。CH₄₇ブロック2は先進的なデジタルコックピットを採用し、機体が強化され、燃料タンクなども改良されて性能が向上しています。また将来的なアップグレードや運用能力拡大にも対応できるようになっています。

◆陸自と空自のチヌーク

以前、陸自運用の艦船(輸送艦)について取り上げましたが、戦車はともかく、車両についてはもちろん陸・海・空で運用しており、空自に至っては軽装甲機動車(通称ラブ)まで持っています。同様に、航空機についてもその任務は違えど3幕で運用しています。ところで、航空機とは空を飛ぶ乗り物全般を表し、前進して機体に固定されている主翼から揚力を得るものを固定翼航空機(いわゆる飛行機)、ヘリコプターのように揚力をプロペラのようなローターブレードから得るものは回転翼航空機に分類され

ます。オスプレイのような機種はこのどちらでもなく、パワードリフト機という新たな分類になるようですが、今後増えるはずであるとはいえず、まだ現時点では機種も少なく不透明です。

回転翼航空機の一般的な形態としては、機体の上に大きなローターブレードが1つあり、そのままだと機体がローターと反対方向に回ってしまうため、その回転を打ち消すために後部に横向きにローターが付いているものが大半です。ところがCH₄₇チヌークは上にある大きなローターが前後2組あり、それらが逆方向に回転するため、尾部のローターが不要となります。これが極めて有益で、機体後部からの出入りが格段に安全になると同時に、大きなもの(車両等)の出し入れが容易になる、機体の重心移動の許容範囲が大きくなる等の利点があり、複雑で大きくなる等の欠点を補い余りあるものになることから、輸送機にはもって来いなのです。

◆今後のチヌークファミリー

防衛省は機動展開能力向上のために現有機体の更新状況を踏まえながら、陸自のCH₄₇を現在保有する50機を60機に、空自のCH₄₇も同様に現有する15機から20機にすることを検討しています。

ここで比較対象となるのがオスプレイでしょう。ですが実際に言うと両者の任務範囲は微妙にずれており、競合はしないようです。ということは、当面CH₄₇は活躍し続けることでしょう。

▼編集後記▲▲

チヌークは巨大なヘリですが、海自にはかつて、さらに大きなヘリ、MH-53Eがありました。機雷掃海のため大きな機材を引っ張る必要があったためです。しかし運用が難しい事、引っ張る機材の小型化が実現できた等の理由から、現在では全機退役し、この任務は2回りぐらい小型のMCH-101という機体が担っています。

例によって、内容に関する責任は全て支部長にあり、特に規則等に定めてあるもの以外は私の個人的見解が色濃く反映されていますので、ご意見等ございましたら遠慮なくお知らせ下さい。